

事例紹介

いっしきなんぶ

愛知県西尾市立 一色南部小学校



eライブラリを活用し “自分で考え学ぶ子” を育てる

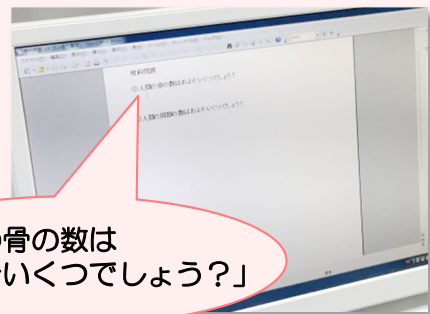
西尾市の小中学校には、ICT支援サービス「ライズeサポート」が導入されています。今回は、一色南部小学校の先生と支援員がチームとなって、ICTを活用した授業に取り組んでいる様子をご紹介します。

4年生 教室で一斉授業 → コンピュータ室で個別学習

教科書 + eライブラリ + オリジナル問題

この日の濱嶋先生の理科の授業では、「人のほねと筋肉」について教室で説明を受けた後、教科書を持ってコンピュータ室に移動してeライブラリでドリル学習を行いました。個々のペースで学習を進め、**わからないところは教科書やeライブラリの解説教材で調べたり、近くの児童と相談し合ったりする様子**が見られました。間違えた問題は自発的にリトライして、100点が取れるまでしっかり解き直しています。

ドリル学習が早く終わった児童から、あらかじめデータで配布されている濱嶋先生のオリジナル問題に取り組みます。自分で考え、教科書やインターネットなどで調べて解答を入力し、共有のフォルダーに保存します。



▲ 濱嶋先生のオリジナル問題

先生 + ICT支援員



一色南部小学校では、授業の後半や単元のまとめでeライブラリをよく活用しています。「ドリル学習を行うことで**児童のアウトプットの機会が多くなり、学習内容の定着につながっています**」と濱嶋先生。紙の教材だと手が止まってしまう児童でも、eライブラリのドリル学習では意欲的に取り組んでいるそうです。児童からも「わかりやすい」「勉強が楽しい」という声がよく聞かれるとのことでした。

パソコンの基本操作は、3年生の頃から濱嶋先生とICT支援員が都度打ち合わせをして、**段階的な授業サポート**で身につけています。そのため、児童は調べ学習のキーワード入力やファイルの保存、オリジナル問題の解答入力などもスムーズに行うことができます。

◀ 濱嶋先生（左）と授業内容の確認をするICT支援員



## 動画 + 補助教材 + eライブラリ

三矢先生の社会の授業では、インターネットの動画教材・紙の補助教材・eライブラリを組み合わせ、幕末から明治にかけての復習を行いました。歴史上の人物と出来事との関連について動画と補助教材で確認した後、**ドリル学習で知識の確実な定着**を図りました。

「ICT支援員の方からは授業に適した教材を提案してもらっています。支援後は自身の授業に取り入れるようにしています」と三矢先生。支援を受けることで、より効果的なICT活用ができるようになったとのこと。



▲ 三矢和史先生（右）

# 1年生 基本操作の確認 → ドリル学習

## 基本操作 + eライブラリ



▲ インターネット上のパズルゲームに挑戦

原田先生の授業では、クラス全員でマウスの操作について確認してから、「なんじ・なんじはん」のドリル学習に取り組みました。100点が取れた児童からは「やったー！」と歓声があがります。問題をしっかり読んで答えることができていました。

ドリル学習が終わった児童から、キーボード操作の練習も兼ねて、論理的思考力の育成にもつながるパズルゲームに挑戦しました。基本操作も学習も楽しみながら身につけていきます。



▲ 原田崇史先生は、児童にわかりやすく内容を伝えるため、教室でもICTを活用しています。



## 学習情報担当 濱嶋 孝弥 先生のお話

ふだんからICTを活用して**子どもが自分で考え学ぶ時間を設ける**ようにしています。これからの社会では答えのないことを考えることが大事になってくると思いますが、先生に教えられて学ぶのではなく、**子どもが自分で考えて学べる環境を整える**ことで、大人になって目標ができたときに役立つ力をつけてあげたいと思っています。

eライブラリは、子どもが自分で繰り返し何度でも学習できます。個人のペースで進められるので、**やる気になった分だけ取り組む**ことができます。紙の教材のように印刷や採点の待ち時間もありません。すぐに〇が出て100点を取れることがうれしいようで、eライブラリの家庭学習サービスを使っている子どももいます。また、文字を丁寧に書くことが苦手な子どもでも取り組みやすく、理科や社会などの**知識の定着確認にはとてもよい教材**だと思います。

ICT支援員の方からは、他の活用校の様子を伺ったり、活用のアイデアや自分たちが知らない情報を提供してもらったりしています。チームの一員として先生はもちろん、子どもからも頼りにされる存在です。

